

# 地域ケア会議

## 地域ケア小会議（個別ケース検討） から見えた地域課題への取組

高松市地域包括支援センター

# 目次

## 1 地域ケア小会議について

## 2 個別ケース検討について

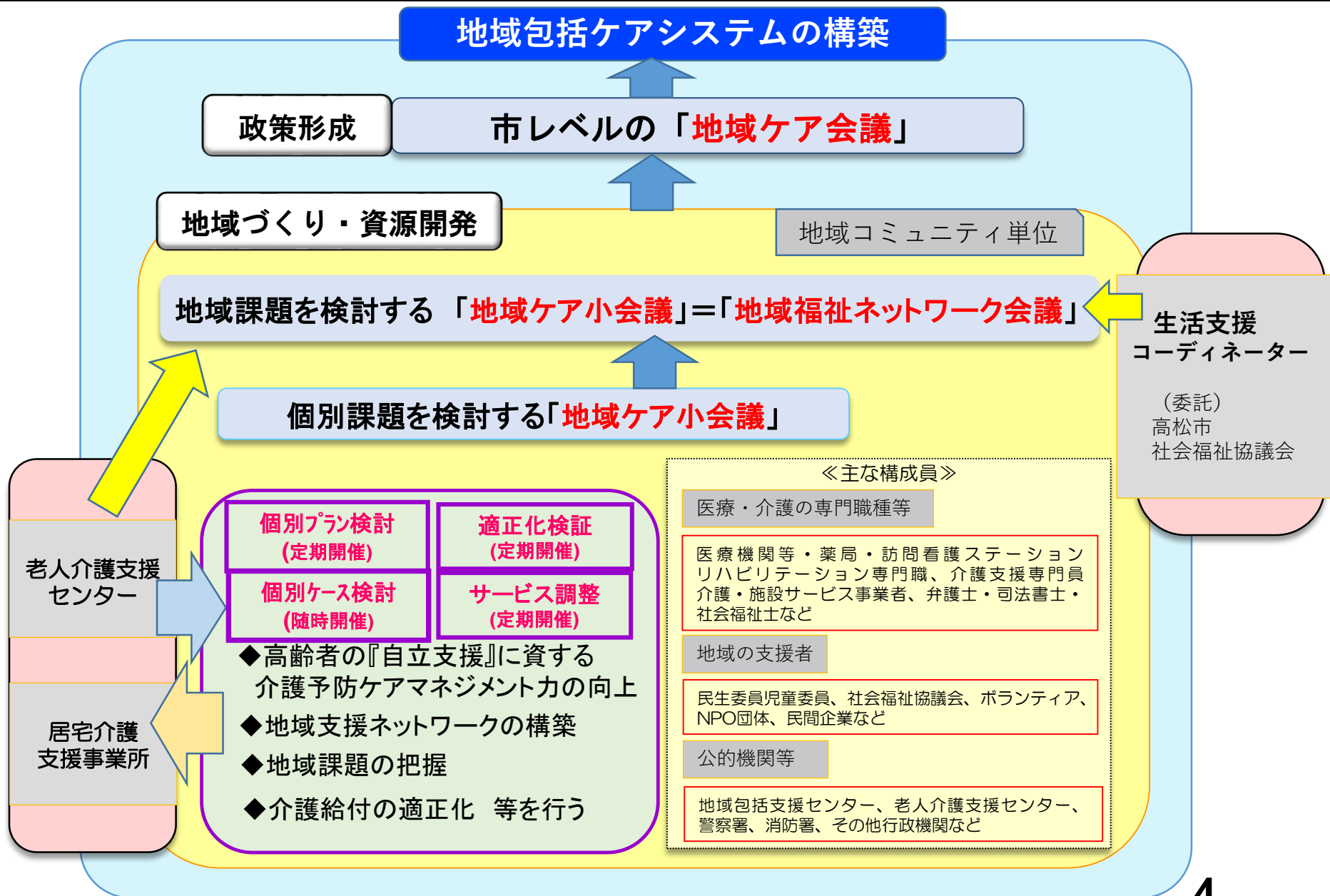
- ・ 個別ケース検討について
- ・ 個別ケース検討（R2～R4.12）の内訳

## 3 個別ケース検討から見えた地域課題への取組

- ・ 事例1 高齢者の孤立を防ぐ地域づくり
- ・ 事例2 認知症の人やその家族を支援する仕組みづくり
- ・ 事例3 複雑化・複合化した課題を抱える世帯の支援体制づくり

# 1 地域ケア小会議について

# 高松市における地域ケア会議と地域ケア小会議について



# 地域ケア小会議の開催状況

## 個別課題を検討する「地域ケア小会議」

会議名	内容	参加者	開催状況				
			H30	R1	R2	R3	R4 (12月末)
個別プラン検討 (定期開催)	多職種参加型のケアプラン検討	担当ケアマネジャー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士等	32回 96事例	32回 96事例	32回 96事例	25回 75事例	35回 102事例
個別ケース検討 (随時開催)	虐待や認知症等で支援者が困難を感じている事例の検討	民生委員、近隣住民、担当ケアマネジャー、介護サービス事業者、関係機関等	18事例	8事例	17事例	11事例	12事例

## 地域課題を検討する「地域ケア小会議」

会議名	内容	参加者	開催状況				
			H30	R1	R2	R3	R4 (12月末)
地域福祉ネットワーク会議	地域コミュニティ単位での地域課題の検討（住民主体のサービスの検討）	地域住民、関係団体代表者等	39地区 259回	39地区 232回	42地区 184回	43地区 102回	43地区 135回



## 2 個別ケース検討について

- 個別ケース検討について
- 個別ケース検討 (R2~R4.12) の内訳

# 個別ケース検討について

## ■目的

高齢者が介護や支援が必要な状態になっても、住み慣れた地域で安心して安全に暮らせるよう、地域の支援者や行政職員、介護専門職等が、日常生活の様々な問題を抱える高齢者の具体的な支援内容を検討しその問題解決を図る。

また、これらを通じて、地域の関係機関等の相互の連携を高め、地域包括支援ネットワークの構築を図る。

## ■参加者

対象となる高齢者を取り巻く**直接の関係者**が出席する。

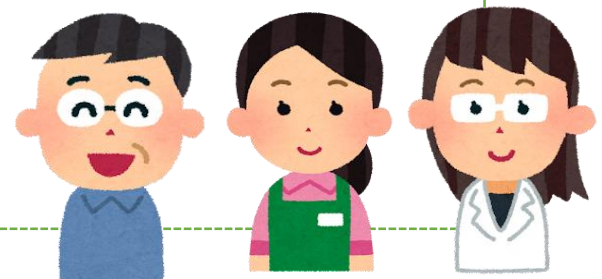
また必要に応じて、専門的立場からの助言を得るため、**アドバイザーの出席を依頼**している。

〈参加者の例〉

家族、民生委員、自治会長、近隣住民、担当ケアマネジャー、介護サービス事業者、関係機関など

〈アドバイザーの例〉

認知症専門医、認知症専門看護師、臨床心理士、虐待専門職チーム（弁護士、社会福祉士）など



# 個別ケース検討について

## ■対象とするケースの例（どのようなケースを取り扱うのか）

- ① 虐待や認知症等で支援者が困難を感じているケース
- ② 支援が必要だと判断されるが、適切な支援につながっていないケース
- ③ 地域や関係機関のネットワークを活用した支援が必要なケース 等

## ■内容（どのようなことを話し合うのか）

- ① 事例提供者と支援者でケースの現在の状況及び課題を**情報共有**する。
- ② 協議したい内容について、**支援の方向性**を共有する。
- ③ **役割分担と今後のタイムスケジュール**を共有する。
- ④ **地域の課題**を抽出する。

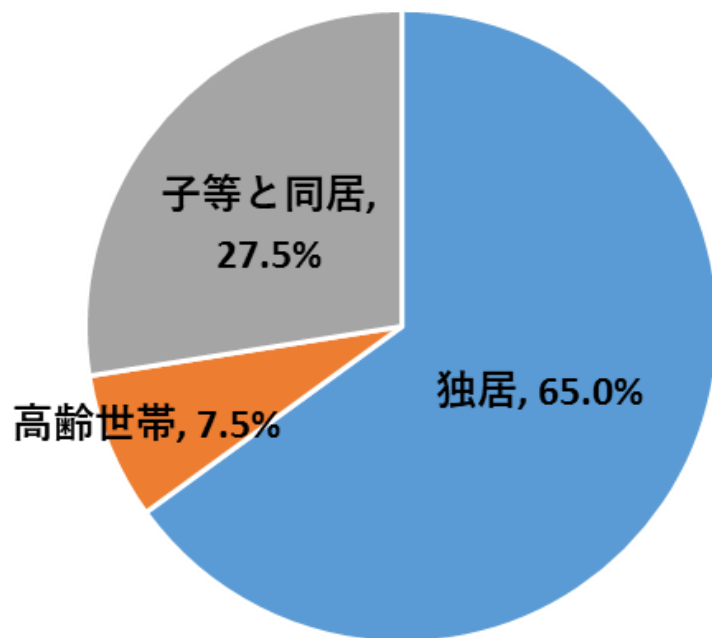




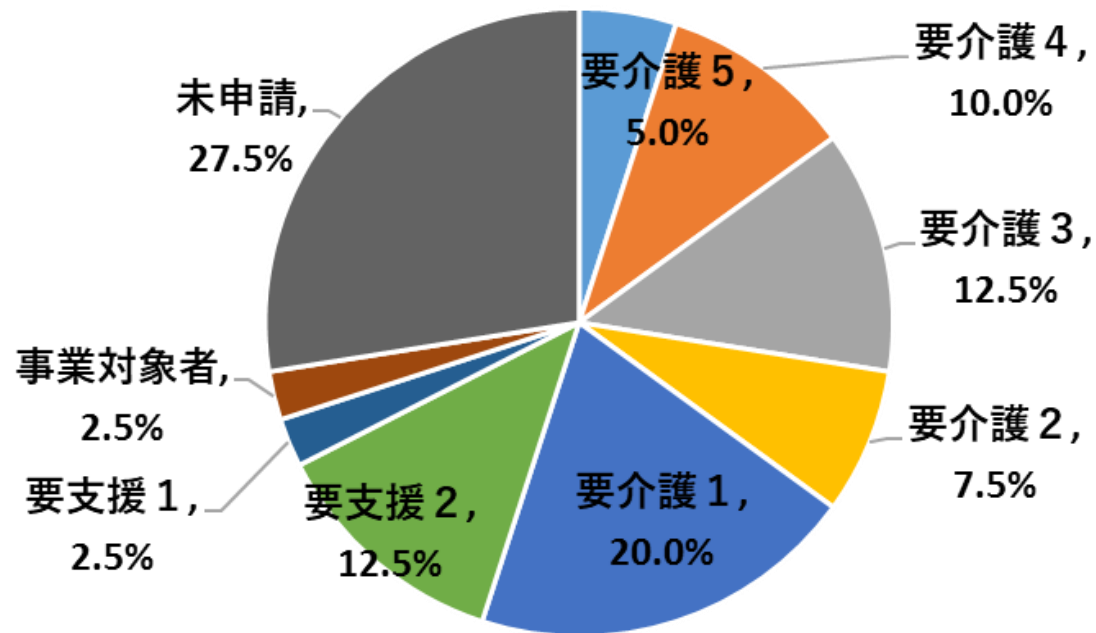
# 個別ケース検討の事例について (R2~R4.12)

## ■個別ケース検討 (R2~R4.12) 全40事例の内訳

① 世帯構成



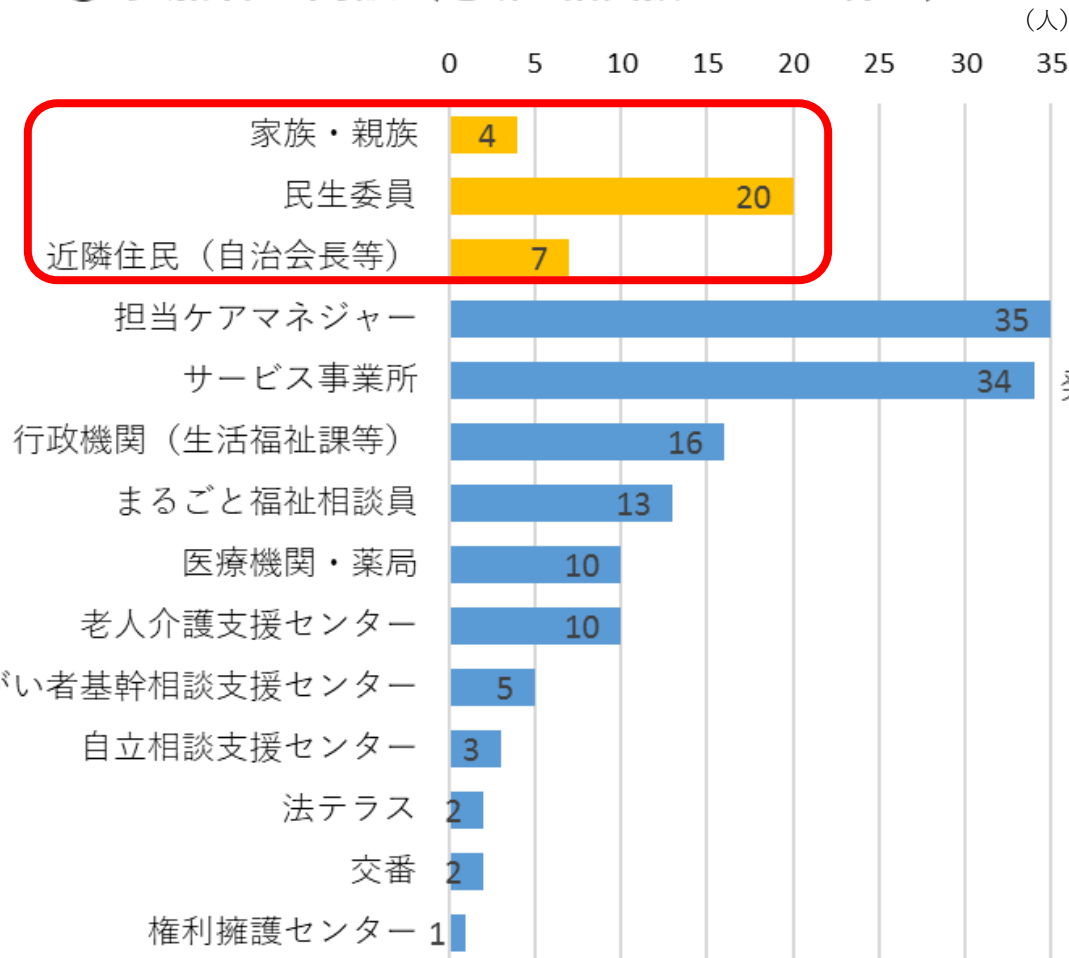
② 高齢者本人の要介護認定状況



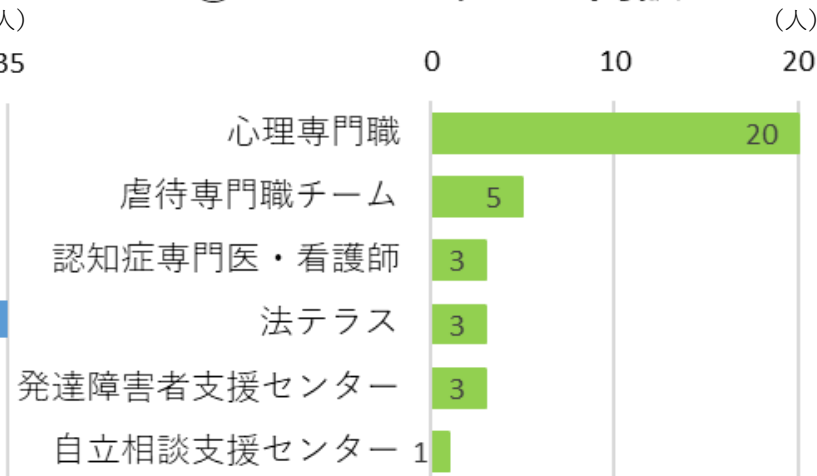
➤世帯構成では独居世帯が65.0%と最も多い。  
高齢者本人の要介護認定状況では、未申請が27.5%を占めている。

# 個別ケース検討の事例について (R2~R4.12)

## ③ 参加者の内訳 (地域包括支援センター除く)



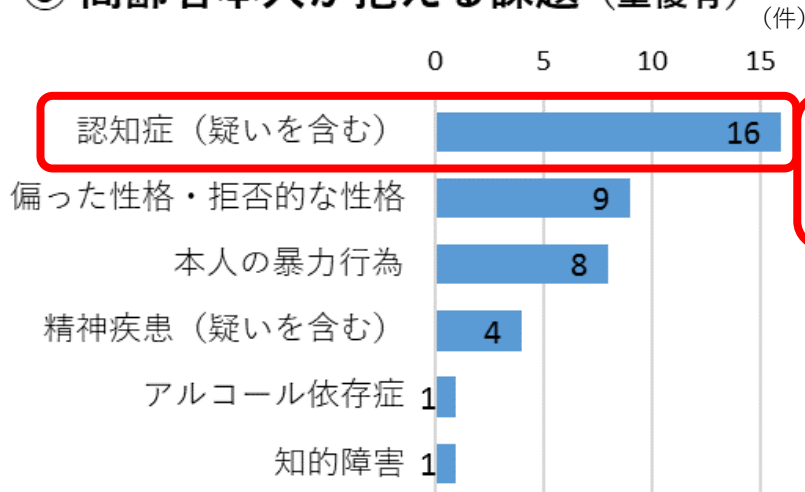
## ④ アドバイザーの内訳



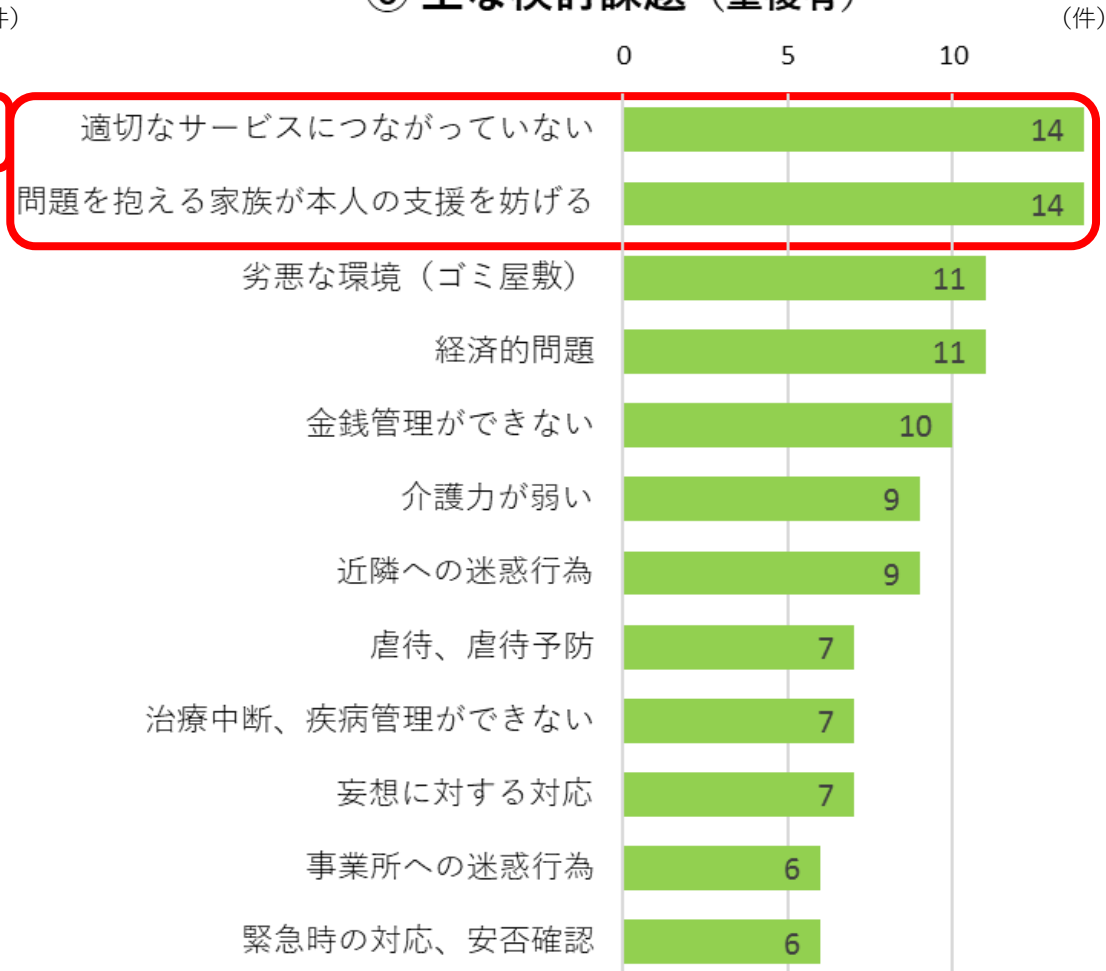
➤ 民生委員や近隣住民の参加もあり、「専門職」と「地域関係者」がそれぞれの視点から情報を共有し、本人が住み慣れた地域で暮らせるための支援やネットワークについて検討を行っている。

# 個別ケース検討の事例について (R2~R4.12)

## ⑤ 高齢者本人が抱える課題 (重複有)



## ⑥ 主な検討課題 (重複有)



➤本人は認知症を抱えている場合が多く、適切なサービスにつながらないまま、認知症が進行した事例や、8050問題をはじめ、問題を抱える家族が本人の支援を妨げている事例も多い。

# 3 個別ケース検討から見えた 地域課題への取組

- 事例 1 高齢者の孤立を防ぐ地域づくり
- 事例 2 認知症の人やその家族を支援する仕組みづくり
- 事例 3 複雑化・複合化した課題を抱える世帯の支援体制づくり

# 個別ケース検討から見えた地域課題への取組

## 事例1 高齢者の孤立を防ぐ地域づくり

〈取組〉

### ➤地域福祉ネットワーク会議での取組

#### 集いの場の創出

Aさんの住む地区の地域福祉ネットワーク会議では、Aさんの団地は、外国籍の高齢者をはじめ、地域とつながりがない高齢者が多いことが課題であったため、団地内で「集いの場」を開催。

Aさんも参加し、地域交流のきっかけになった。

現在、定期開催できるよう地域住民に働きかけている。

団地内に住む世帯に  
「お住まいの地域に関するアンケート調査」実施

#### アンケート結果（回収率78%）

Q：団地内によく話す方は何人ぐらいいますか？

A：「1～2人」36% 「いない」33%

団地内で「集いの場」を開催  
内容：桜を見ながらの歓談。ちょっとした体操等  
主催：地域福祉ネットワーク会議  
参加者：住民7人、運営9人



# 個別ケース検討から見た地域課題への取組

## 事例2 地域とともに認知症の人を見守る仕組みづくり

〈取組〉

### ➤ 認知症サポーター養成講座等の開催

地域住民・学校・企業等を対象に、認知症サポーター養成講座や市政出前ふれあいトークを開催し、認知症についての正しい理解・知識を普及する。

(R4年12月末時点 累計養成者数 55,353人)



### ➤ チームオレンジの設置

R4年度に認知症の人を支えるボランティアチームを設置し、地域での周知啓発活動や、認知症カフェでのボランティア、認知症の人へ個別支援（見守り、話し相手、困りごとのお手伝い等）等の活動を支援する。

(R4年12月末時点 登録数37人)



# 個別ケース検討から見た地域課題への取組

## 事例3 複合化・複雑化した課題を抱える世帯の支援体制づくり

〈取組〉

### ➤ 包括的な相談の受け止め

R4年度から、高松市では重層的支援体制整備事業を実施し、地域包括支援センターや老人介護支援センターは包括的相談支援事業者として、複合的課題を抱える高齢者の相談だけでなく、分野を超えた相談も受け止め、必要な機関と連携し、支援をつなぐ役割を担っている。

### ➤ 8050問題をテーマにした研修会の開催

R4年度の主任ケアマネジャー対象の研修会では、「高齢者支援と8050~家族の力を見極める~」をテーマに、精神障がいやひきこもりについての理解促進を図った。

また、高松市自立支援協議会と地域包括支援センターの合同研修を開催し、高齢者福祉分野と精神保健福祉分野の連携について理解を深めた。



# 個別ケース検討から見えた地域課題への取組

高齢者の孤立を防ぐ地域づくり



地域とともに  
認知症の人を見守る  
仕組みづくり



複雑化・複合化した  
課題を抱える世帯の  
支援体制づくり



取組の推進

住み慣れた地域で共に支え合い、高齢者が  
自分らしく安心して暮らし続けられる社会の実現へ